

**山本有三『路傍の石』を
寄贈していただきました**

8月27日、本市の名誉市民である山本有三先生の『路傍の石』1,100冊を、山本有三記念会・山本有三先生のご遺族から、市教育計画の基本理念である「生きる力」を持った子どもたちの育成に活用してほしいと市内各小中学校に寄贈いただきました。



▲山本有三記念会の木村洋三会長（写真右から2人目）や山本有三先生の遺族から本の寄贈を受ける赤堀明弘教育長（写真⑥）

本市の教育の向上に大きく寄与されたことに対し、市から感謝状を贈呈しました。寄贈された本は各小中学校の教材にするなど、大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

本文化課 ☎20・1089

**東日本大震災お見舞い
ありがとうございます**

東北地方太平洋沖地震に対し、市民の皆さんから心温まる義援金が寄せられ、8月31日現在、総額は86,039,210円になりました。日本赤十字社を通じて被災地に送ります。募金をお寄せいただきました方々は、次の通りです。名前の分かる方のみ記載します。（敬称略）

石川 猛、西方子ども夏祭り街頭募金及び益金、栃本市消費者友の会

本社会福祉課 ☎21・2503

寄付ありがとうございます

福祉の増進に役立ててほしいと、地域福祉基金へ寄付が寄せられました。

▽さつき会様

34,815円

▽異業種交流四ツ葉会様

30,000円

▽占部 真由美様

30,000円

この寄付金は、今後、福祉

11月は児童虐待防止推進月間

“さしのべたその手がこどもの命綱”

（平成25年度標語）

児童虐待は、子どもの人権を著しく侵害し、心身の成長や人格の形成に悪影響を及ぼすものです。子どもを虐待から守るためには、子どもの立場が最優先され

なければならない。

◆身体的虐待 なぐる、ける、熱湯をかける、タバコの火を押しつける、など

◆心理的虐待 言葉によるおどかし、無視、他のきよ

い、など

◆ネグレクト（養育の怠慢・拒否）食事を与えない、入浴させない、など

◆性的虐待 性的行為を強要する、など

◎ちよつとした「目配り」「気配り」で、子どもを虐待から救えます。子どもの不自然な傷・表情・行動や、

女性に対する暴力をなくす運動

（11月12日～25日）



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

近年、社会問題となつて

いる配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオ

レンス＝DV）、セクシュ

アル・ハラスメント、ス

トーカー行為等といった女

性に対する暴力をなくすた

め毎年11月12日から25日

まで「女性に対する暴力を

なくす運動」として、キャン

ペーン活動を行っていま

す。

「DV防止講演会」を開催

します

保護者の不自然な言動に気づいてください。

◎相談（通告）は、虐待者の処罰のためではなく、問題を抱えている家庭を支援し、子どもを守るために行われるものです。相談（通告）者の秘密は守られます。

◎子育てでお悩みがありましたら、相談ください。一緒によい方法を考えましょう。

◇相談（通告）先

本 とも課 ☎21・2513

☆児童虐待防止講演会

◆日時 11月20日（水）14時～15時30分

◆場所 栃木保健福祉センター（今泉町2丁目）

◆講師 仲根泰子氏（NPO法人いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい事務局長）

◆費用 無料

◆問合先

本 とも課 ☎21・2513

▽とちぎ男女共同参画セン

ター相談ルーム ☎028・665・8720

▽栃木警察署 ☎25・0110

▽ウイメンズハウスとちぎ ☎028・621・9993

◆日時 11月19日（火）14時～15時45分

◆場所 市民会館（日ノ出町）

◆演題 「男女間のより良い関係を築き、DVを未然に防止するために」

◆講師 山口哲子氏（宇都宮文星短期大学教授）

◆入場料 無料（自由参加）

◎ひとりで悩まないで

▽ドメスティック・バイ

オレンス相談（こども課）

☎21・2513

本 人権・男女共同参画課

☎24・0351

クマに注意してください！

今年はクマによる人身事故が例年より多く発生しています。クマは人とはつたり出会うと、びっくりして子グマや自分の身を守ろうとして人を襲うことがあります。クマを寄せ付けないよう、出会わないようにすることで多くの事故を防ぐことができます。

〈クマを人里へ寄せ付けないために〉

1. 誘引物の除去

・柿や栗などの実を片付ける

・生ゴミや廃棄野菜を庭や裏山に捨てない

・犬や猫のエサ等を夜間は建物内に入れておく

2. クマに出会わない環境づくり

・家屋周辺や歩道脇などのやぶを刈り払って見通しを良くする

・住宅敷地に夜間照明を設置する等でクマを発見しやす

くする

・クマが活発に活動する早朝や夕方、やぶや果樹のある場所になるべく近づかない

〈山林などでクマに出会わないために〉

・鈴やラジオなどで人の存在をクマに知らせる

・弁当などのゴミは必ず持ち帰る

〈出会ってしまったら〉

・静かに、走らず、ゆっくり後退してクマから離れ、絶対に近づかない

・襲ってきたら、地面にうずくまり、首の後ろで手を組んでクマが立ち去るのを待つ

県南環境森林事務所

☎0283・23・1441

本 農林課

☎21・2557